

<広瀬川通信12月号>

今年も残すところわずかとなり、時の経過を早く感じます。広瀬川には例年のように白鳥が飛来していますが、このところ例年になく温かく感じます。さて、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

今月は今年最後の清掃となりました。終了後に恒例の焼き芋会を予定しています。焼き芋を食べながら今年1年の活動を振り返り、皆様と一緒に来年に向けて語り合いたいと思います。

少し早いですが、来年も良いお年となりますよう祈っています。

【報 告】

11月13日(土) 広瀬橋 河川清掃

広瀬橋周辺を清掃しながら郡山堰下流で、沢山のサケが産卵するところを観察しました(感激)。参加36名



【今後の予定】(12月~1月)

12月11日(土) 午前10時~ 広瀬橋 河川清掃

今年最後の清掃です。終了後に焼き芋会。大勢で参加される場合には事前に連絡を。(芋持参歓迎) 参加無料(参加者募集 芋持参歓迎)

1月 8日(土) 10時~ 広瀬川初歩きと新年会(3千円)

※) ご注意 1月と2月の広瀬川清掃はお休みです。

<水・環境ネット東北第11回定時総会に参加して(報告)>

11月7日(日) 若林区荒町市民センター。久しぶりに標記総会に出席しました。総会前に研究会でテーマ「久保川イーハトーブ(※)自然再生事業について」(<http://www.jumokuso.or.jp/kubokawa/>)を会員である一関市の名刹、祥雲寺の住職千坂げんぼう氏が講演しました。大変印象的だったので報告します。久保川は、須川岳(栗駒山)ふもとから一関市を流れる北上川の支流で、元来、山河の自然豊かな環境であり、農水省の「ため池100選」にも選ばれているところですが、ここも農地や里山の荒廃が進んでいる地域でした。この丘陵(析倉川を含む)約25haの地域を対象として平成21年5月から自然再生法に基づく自然再生事業がスタートしました。

目標は、①生物多様性に満ちた水田・ため池を含む水辺と里山の自然環境の保全。②過去に存在した地域の生態系再生と環境学習の場創出。③里地里山の自然と人との関わりの維持・回復、自然との共生。④里歩き、保全再生事業の体験・学習、エコツーリズム、首都圏と地域の交流等です。

再生協議会は、個人では久保川イーハトーブ自然再生研究員はじめ、前岩手大学長、一関市教育委員会委員長教育長、作家、NPO役員など地域に深く関わる市民が主体となり、団体では、環境省東北地方環境事務所、岩手県、一関市、久保川流域地区区長会、北上川流域連携交流会などのNPO、樹木葬・里山保全の会で構成されています。行政主導ではなく、市民参加型の自由な活動が特色です。どこかの県とは大分違うところです。

千坂氏が現在の協議会会長となり、外来種の撤去や在来希少種保全に力を入れて活動しています。また、東京大学の農学生命科学生態学研究室との協働によって生態系、生物多様性に関する調査を実施しているとのこと。都市圏との交流もあり、北海道から沖縄まで広範囲にこの里山を訪れる魅力は何でしょうか? 「感性は、自然との触れ合い。」「宗教は、自然との一体性。」と、心を打つ言葉でした。

(※) イーハトーブとは、宮沢賢治が理想郷として名付けた言葉です。HK記

特定非営利活動法人広瀬川の清流を守る会

〒982-0011仙台市太白区長町1丁目2-16-201(昭和宅建内)

電話022-247-6522 fax 022-290-3205

メール info@hirosegawa.com URL www.hirosegawa.com